

ごみを減らそう!!



津田清美(左)と5歳の長女 子どもも協力



大塚市(津田街)の環境委員(左)と
環境局長(右)



天ぷら油を持参すると、
キネマスタンプが渡される。

**キネマ stamp が
デビューします!!**

12月2日スタート!

●お買上げ100円につき、シール1枚。
●台紙1冊(シール350枚)が500円に。
●台紙とお買物やイベント参加がおすすめです。
慣れるほど特向いっぱい!

お喜様と心で結ぶ商店街 **大塚通り
キネマストリート** 前店 街館

キネマスタンプをチラシで告知。



映画にちなんだ図案
が楽しいスタンプ。

gomi情報最前線

「ごみ減らし」に「取り組み」、エコ商店街として活気を取り戻さそうとする動きが各地で見られるようになってきた。

松竹撮影所のすぐ近く、右京区大塚の大塚通り商店街もごみ減量に前向きだ。きっかけは2年前、「いわゆる」エコ商店街の走りとなりた早稲田商店街から講師を招き、アドバイザーを受けたい。

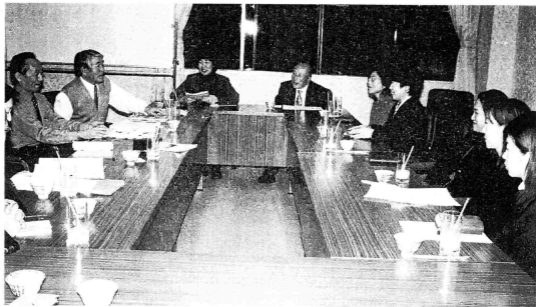
京都市の勤めもつて2000年8月、使用済み天ぷら油の回収をスタートさせた。3カ月の取り組みを経て、12月かキネマストリートと呼ばれる大塚通りならではの「お祭り」方式と運動させた回収を実施し、着々と油野を広げている。これは商店街のスタンプ加盟店(44店舗)での買い物100円に付スタンプを一枚進呈、台紙がいっぱいになると、500円の高額または返却交換券(または返却)できるという仕組み。天ぷら油の回収に協力した際には、量に拠らず500円分の買い物相当のスタンプが渡される。セル時の折り込みみずびでも回収協力を呼びかけている。

「商店街も物を売るだけでなく、お客様に喜んでほしい、なにか社会のお役に立つ活動をしなくば」と、森善生理事長。天ぷら油の回収ばかりが、昨年12月～1月にかけて空を巡回、石けんへの講習会なども盛り込んだ「エコロジック体験館」を実施するなど、エコ商店街として活気を盛り上げようと意欲をみせる。

「こうした試みが刺激となって、京都にエコ商店街が増えることを期待したい。」

使用済み天ぷら油 回収のいま

97年8月下鴨・松ヶ崎地域ごみ減量推進会議でスタートした使用済み天ぷら油の回収。あれから4年が過ぎ、地域ごみ減量推進会議も天ぷら油の回収拠点も増え続け、今や京都市のごみ回収車210台、市バス75台が使用済み天ぷら油のリサイクルによるバイオディーゼル燃料で走るまでになった。実際、回収に参画している方は、どう思っているのか。問題点はないのか。それぞれに事情が異なる地域ごみ減量推進会議の方々にご登場願った。



回収スタートするまでの経緯

アンケートをしたり、学習会をしたりみんなの理解を促して、いよいよ開始

原田：平成11年、西区区の自治連合会会長会議の席で、各地区で天ぷら油の回収に取り組んでほしいとの話があり、地域に持ち帰り相談したところ、ぜひやってみようということになりました。みんなのやる気を盛り上げようと、全世界を対象にアンケート調査を実施し、10271枚を回収。意見をまとめまし。また、実質的な活動の担い手となる女性の意見を尊重しようということで、女性会やP・A、自治会の女性の方におまわりのいただき、学習会を開いたりもしました。そして、いつまでも議論ばかりしていては前に進まないで、まず、ごみ減量推進会議を立ち上げようということになりました。それでも立ち上げまでには力を要しました。あせらずじっくり地域の皆さんの理解を醸成して立ち上げた方がいいですね。

堺：私は地域女性会の役員のほか、保健協会の役員も兼ねており、協賛会の方で天ぷら油の回収の話を聞き、「甘んばあかな」と思っていたら、京都市地域女性連合会で「10万人元質アンケート」が実施され、その結果、環状問題への前向きな姿勢がかがえたので、天ぷら油の回収を始めようということになりました。

福田：釜町の地区会、もともと女性会とが協賛（社会福祉協議会）とが天ぷら油の回収はやらないか、という話があったと聞いています。だが実際やってみると、だれがやるのかというところになりました。結果的に「まず、それやったら私らが世話役をやるうやないか」と会長の中村と私

が立候補し、連合会の賛同を得て、みなさんの協力を取り付け、連合会の形をスタートしました。10年11月のことです。

村西：西野の苦さは、天から油の回収の前に山形野地帯で町民組合を立ち上げていきました。既存の組織との関わりはなく一市民レベルでもできることを示すことによって会員制によって運営することになりました。会員は190人位です。

当初は、古物の分別回収収集車という形のモデル地域と出来ましたが、注有償でない雑誌は持っていくてもならない頃、すべて無料で回収していただいたというところからスタートです。山内：西野は大きな団地を造って、1階から11階の団地になります。配水費が油だけ、電費が詰まってくるという状況とから流して、ごみとが明らかでした。

これは、やらなければならぬと思い、10年の12月からはじめたわけです。



桂川地域ごみ減量推進会議

自治連を母体として立ち上げた組織
会長：原田 昭治氏
西城区 桂川学区
回収日時：第2日曜日 10～11時
拠点数：24カ所
開始日：1999年 8月
回収方式：20Lのポリタンクを自治会の役員宅の軒先などに設置。当日は、当番が回収場所に監視



紫竹地域女性会ごみ減量推進会議

女性会を母体として立ち上げた組織
副会長：堺 紀恵子氏
北区 紫竹学区
回収日時：毎月最終水曜日 8～10時
拠点数：14カ所
開始日：2000年 5月
回収方式：20Lのポリタンクを女性会の役員・会員宅の軒先などに設置
当日は、当番が回収場所に監視



オブザーバー
関西ボインターナショナルの方々

—どういった形で回収するのか—

拠点づくりや体制づくり

原田：開始にあたって問題となるのは回収方法です。回収拠点を多くすれば持つてゐる方はラフですが、それを収集するのが大変です。そこで実際の回収をしていただくレボさんの担当者が業務についても説明をしたとき、各自自治体で協議の結果、自治体の役員さんにお世話になることになり、回収日時を決めるとも自治会から自治会内の1カ所ですタートしました。その後、参加自治会も順次増加し、現在は学区内全自治会参加の24カ所で回収されています。あります。

堺：紫竹女性会では、28年前に創立以来古紙回収をしておりますが、会員さんを中心に町域の方に深く浸透しています。音響員の家の前の14拠点を利用して回収しています。

た。全拠点でも必ず回収にまわってもらえるのか心配でしたが、回収業務をされるレボさんもお話し合い、1カ所未だず(か)と申し出てもらってご自分のペースでまわらせていただきます。

京都市の方もいろいろアドバイスはありました。

原田：室町は3300世帯と範囲が広く、拠点も43あり、1日だけでは回収できず、3つの区域に割り、3日割りにして、20、25日に実施しています。会長と私がバイクで二人で回収に回っていますが、最初は軽い箱が、屋でロロロと取りまわされるようなところもありました。最近は油杯がのも4つもあり重たくて働かなくなったのときも、やはり、少しずつ浸透させてきているのであります。

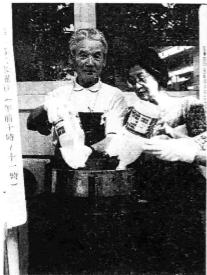
村西：最初はドアノブ方式で、始めの頃はごみ袋ごとでも持っていくシステムでしたが、いま回収拠点8カ所位、それぞれ2カ所ずつあります。女性会を持って、もう10リットル入りの小さなポリタンクを用意してもらって、会員さんに

—地域への浸透は?—

はじめは知らん顔だった人も持参回収が始まって良かったの声が

原田：1年間集めてみて、100リットルを越える戸と100リットル未満の戸と交互に出ています。量が多いとごみで1カ所約30リットル、平均20リットル程度のところが多いです。拠点を合わせ平均戸90～120リットルくらいで、年間実績で1064リットル集まりました。私とでもは途中経過を報告して、ごみ袋の成績や、次は強張り、ごみカ月単位というて業務を報告して呼びかけながら進めてあります。

手渡してレボさんにお渡しするくらいシステムはしてあります。たいていでもごみシステムにしないと面倒だからといって、ごみ袋の量が減ります。13年度から一カ所増えますし、西野学区自治会でも本格的に協力もあって、いじって思っています。



山内：みなさんそれぞれ思いがあつていろいろのやり方があるんですけど、それぞれの特徴を見て、それぞれの地域で、使いやすい方式で天ぷら油の回収を広げていってほしい。マナー面については、ぜひ心がけてほしい。水が汚れるのがよくない。排水溝に流さないで、ドラム缶に入れて回収してほしい。

使用済み天ぷら油の回収は地域の環境活動の基盤

堺：まだ10月になりませんが、今のところ問題に突くような情報が入ってきませんが、現在、役員さんが積極的に当番で立ててくれているので、

「取り組みの成果」

村西：若い人は手が汚れるのが感じて、「イヤ」と言われる。もっとも若い人に協力してもらわないと、あかさんが各桶が汚れないようにしてほしい。

原田：回収の時間について、これは市税側の協力姿勢の問題ですが、基本は10時から1時までの間に持ってきてもらうことになっているのに、レポさんが1時前に来たために、ぎりぎりを持ってこられたところが回収の前に合わなかったことがありました。回収に来てくれた方が時間厳守をお願いします。

「取組の課題」

山内：みなさんそれぞれ思いがあつていろいろのやり方があるんですけど、それぞれの特徴を見て、それぞれの地域で、使いやすい方式で天ぷら油の回収を広げていってほしい。マナー面については、ぜひ心がけてほしい。水が汚れるのがよくない。排水溝に流さないで、ドラム缶に入れて回収してほしい。

原田：使用済み天ぷら油の回収をして地域環境化とどういう関係があるのかなと、回収した後はどういう具合に使用されるんや、ということも学習し理解していただく必要があると思います。また、小学校の方で子どもたちに環境教育をしてもらうことも、使用済み油の油を揚げんを作る方法や上手な油の使い方を自治会としては油を使い切る方法を紹介する、実践的な面で環境学習を応援できると想っています。



レポインターナショナルがトラックで回収に回ってくる



20リットルのポリタンクを玄関先に置いての回収風景

バイオディーゼル燃料に関する軽油引取税について

去る3月7日付けの新聞にバイオディーゼル燃料による市バスの運行が軽油引取税の壁にぶつかり、使用を断念したとの報道があった。

現在、市民の協力により回収された廃油は、9万5千リットル（平成12年度）。これが150万リットルの燃料にリサイクルされ、ごみ収集車210台のほか、軽油との混合により市バス75台が走行していた。

軽油引取税の解釈で問題となったのは、軽油80%にバイオ燃料20%の混合で使う市バス。総務省は府に対し、総量が課税対象となると返答。これによると1リットルあたり32円10銭の税金が加算され、京都市には年間600万円の納税が義務づけられる。そのため、廃油燃料の使用を断念せざるを得ない状況に陥ったが、その後5月に入り、府は廃油の燃料化を「市民参加型の先駆的なリサイクル事業」と評価、補助制度を検討する運びとなった。環境行政の目玉として4月から廃油燃料の使用を再開し、市バスは元通り75台が廃油燃料で運行している。

京都市ごみ減量推進会議 ホームページ立ち上げ まずはアクセスしてみよう

ついに多額がなつてホームページが立ち上がった。「結構がわかりにくい」「どんなことをしているのかわからない」「そんな事にお応えしてホームページには、京都市ごみ減量推進会議の主旨をわかりやすく案内している。活動概要や会員団体リスト、会報誌など内容も盛りだくさん。立ち上げまでの道を切り拓いた、ごみ減量推進実行委員会 藤田さん（コリリーグ）からメッセージが面している。

「長い間の懸案だったごみ減量推進会議のホームページがようやく始動に漕ぎつきました。作る私も、最初はホームページ作成技術の何もしらないところから始めたので、どうやって進めていったらよいか試行錯誤の連続でした。でも、これやっと、皆さんに見てもらえる画型ができたので、これをたたき台にして皆さんから様々なアイデアを出してもらっています。

①これまでのごみ減量を通じての調査研究や実践事例がわかる
②現在、どんな活動が行われているかがわかる
③これから「ゴミ」を減らすためにどんなことをしているのかのかわかる
④ホームページに「ごみ減量」活動に何か密着できればと思っています。



URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

再生紙利用促進キャンペーン 実行委員会が13年度の事業について 話し合う

小学生が学校給食時に飲む牛乳紙パックのリサイクルによる、「トレットペーパー」の誕生。トレットペーパーを1000万枚プレゼント、その普及に努める再生紙利用促進キャンペーン実行委員会が、去る3月9日（金）（於：市民生活センター）今後の活動について話し合った。「めくレットペーパー」は、京都市内の店舗でも販売しているが、同会ではホテルなど大量の仕入先の開拓を急いでいる。



立ち上げ相次ぐ、 地域ごみ減量推進会議

使用済み天ぷら油の回収をきっかけに、それぞれのエリアでごみの減量に取り組み、地域ごみ減量推進会議の立ち上げが続いている。

- このほどスタートしたのは宇多野地域女性会ごみ減量推進会議（石京区・4月立ち上げ・池ゆき会館）、砂川地域ごみ減量推進会議（伏見区・4月立ち上げ・田沼栄子会館）、音羽川学区リサイクル推進委員会（山科区・5月立ち上げ・小野野二代表）の3団体。この3団体の参加により京都市ごみ減量推進会議の地域ごみ減量推進会議は39団体に、天ぷら油の回収拠点は604になった。天ぷら油の回収日は以下の通り。
- 宇多野地域女性会ごみ減量推進会議 毎月第4木曜日・10～12時・1拠点（6月よりスタート）
- 砂川地域ごみ減量推進会議 毎月第1日曜日・10～11時・14拠点

ペットボトルのリターナブル に向けて着々と実現化へ

2001年4月リターナブルプラスチック研究会の月例報告会があった。この研究会は、市民、行政、事業者がパートナーシップをもち、ごみ減量化への具体的な行動をしよう、と昨年4月、ごみ減量推進会議の調査活動として立ち上げられた。この報告会では、リターナブルペットボトルの製造について、また化学的な試験報告をはじめ、大学やホテルへのペットボトルに関する意識調査の結果が報告された。試験結果によると、リユースしても内容物の臭いは微量であり安全性・衛生面ともに人体に影響はないとされた。また、ホテルアンケートでは処理コスト削減、仕入れ価格低下になれば、リターナブルペットボトルの採用を考えると便利だともご購入できる手続式があるが、wayではごみの山になつてしまふ。そこでリユースを「ペットボトルのリユース」はリサイクルよりも環境負荷が小さい。今の現状でいかにこの発生抑制を考え、ごみ減量がビジネスとして成り立つか模索中である。今後、実用化に向けて、より安全で安心できるリターナブルペットボトルの研究開発に取り組んでいくとのこと。



（取材：田中真砂世）

●音羽川学区リサイクル推進委員会 毎月第4金曜日・14～15時・3拠点

組織変更、循環型社会推進課へ

社会の風は、循環型社会形成へ大きく動いている。「循環型社会形成推進基本法」が制定されたのは、昨年六月。資源リサイクル法、食品リサイクル法など、一連の法体系が整備されたのに伴い、新たな業務に対応するため、京都市もこの4月から組織変更、リサイクル推進課を廃止、バイオエネルギー燃料、バイオガス事業などを統合的に進める、循環型社会推進課としてスタートした。市民・企業・行政の3者のパートナーシップ活動など、ごみ減の役割は、今後さらに大きく伸びていく見込みだ。

京都市ごみ減量推進会議の事務局の電話番号が変更になった。

新し電話番号は、TEL 075-257-5053
FAX 075-213-0453
(FAXは今まで通りです)

最先端の排ガス処理設備を採用した 京都市東北部クリーンセンター開設

左京区静市にクリーン度を得たたみ処理施設が完成。4月より稼働している。

焼却能力1万700トンを持つこの施設は、厳しい排ガス自主基準を定め、ばいじん、塩化水素、硫黄酸化物、ダイオキシンなどの排出は法規制値を下回っている。また、高温高圧蒸気(温度400℃、圧力3.92MPa)を用いた発電にも、場内の電力を、熱源として温水の利用を行い、サーマルリサイクルで二酸化炭素の削減をはかる予定だ。



京都市
東北部クリーンセンター
Tohoku Clean Center
City of Kyoto

京都市環境局
環境政策課

「京の始末を考える」発刊

(A4サイズ・14ページ・オールカラー)

2000年8月成立した「循環型社会形成推進基本法」では、環境に負荷をおよぼさないための基本として、まず「発生抑制」(Reduction)、「再使用」(Reuse)を、その後「再資源化」(Recycle)を優先していき、京都市は、環境に負荷をおよぼさず、資源を有効に活用する「3R」の原則を、今より徹底すべきと願います。京都市は循環型社会形成の足がかりとするため、この「京の始末を考える」を発刊しました。増え続けるごみの現状がデータで示されているのが、ごみごみの特徴。その他に、ごみの出し方、減らさなければならない、日々どんな風に暮らせば環境への負荷が軽くなるかを紹介しています。表紙は、ごみ減量長でもあるハイムン氏の漫画「スマイル・イズ・ユニーク」をモチーフにした、新しい生活スタイルを提案しています。

「京の始末を考える」をご希望の方は下記へお申し込みください。

TEL 075-2021-3450
FAX 075-2021-4000

京都市環境局環境企画部地球環境政策課

京の始末を考える



京都市環境局

家電リサイクル法がスタート！ 循環型社会へ大きく踏み出した。

家庭や事業所から捨てられず家庭用のエアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機を廃棄して、家電販売店、家電メーカー、消費者の役割分担によりリサイクルを行うことを義務づけた家電リサイクル法が、この4月より完全実施された。この4品目については、クリーンセンターに直接持ち込むことも、原則として大型ごみとして申し込むこともできる。

家電を廃棄する際には、まず廃棄する機器の引き取りを販売店に申し込む。販売店が引き取りに来たら、リサイクル料金と収集運搬料金を添えて引き渡す。消費者から引き取られた家電廃棄物は、メーカー毎に別のルートに分けられ指定取引場所(市内3カ所)に運ばれ、そこからリサイクル工場に行き、再生される。家電リサイクル法は循環型社会へのひとつの青信号といえ、リサイクルに費用もかからず、環境負荷も低く、市民も事業者も発生抑制を心がけて、できるだけ廃棄せずによく使うようにしたいものである。

使用済み電池、 どうなっているの？



カメラ、携帯電話等の通信機器、OAやAV機器など、便利な道具のエネルギー源として働いている電池。電池の販売量は年を追うごとに増え続けて2000年には83億2753万個に達した。10年前と比較すると使い捨ての一次電池（いわゆる乾電池）で1.25倍、二次電池（充電式など）はなんと約3倍も増加していることになる。（図1参照）

電池は便利さの反面、多くの問題をはらむ存在だ。まず、有限な資源を原料としていること。そしてリサイクルシステムの整備が十分とは言えない日本では、その多くが使い捨てられていること。クリーン化が進んでいるとはいえず、そのまま廃棄すると、環境汚染、人体汚染が心配だ。

現代の暮らしに電池は不可欠。私たちは電池とどう、つきあえばいいのだろうか。



区役所内に設置された回収ボックス（北区にて）

表1 京都市の乾電池回収実績

年	重量
1993年（平成5）	2トン
1994年（平成6）	5トン
1995年（平成7）	10トン
1996年（平成8）	9トン
1997年（平成9）	14トン
1998年（平成10）	20トン
1999年（平成11）	25トン

（表1参照）

一次電池である乾電池に含まれている水銀がごみ処理を通して環境汚染を招くと社会問題となり、厚生省は85年、①水銀含有量の低減の推進、②使用済みアルカリ乾電池等の広域的な回収、処理の実施③水銀等の排出に関するモニタリングの強化を主たる内容として進めた。

クリーン化については、91年にはマンガン乾電池、92年にはアルカリ乾電池の水銀ゼロ使用達成が電池工業会から宣言された。サイクル化については、全国都市清掃会議廃棄物処理技術開発センター（当時）に北海道イトム力工業所での再資源化を希望する自治体と運搬業社の間をつなぐ機能がおかれた。

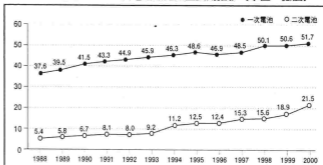
京都市はクリーンセンターに水銀回収装置を設置するとともに、現在77拠点を回収したマンガンやアルカリの簡易乾電池を北海道のイトム力に輸送している。

市民の声でメーカーや国が動き、乾電池の水銀ゼロ化を実現。

表2 イトム力 乾電池からの水銀抽出

年度	乾電池	処理量	水銀抽出量
1994年	平成6年度	8600 t	650kg
1995年	平成7年度	9300 t	510kg
1996年	平成8年度	10000 t	420kg
1997年	平成9年度	10000 t	350kg
1998年	平成10年度	12000 t	340kg

図1 一次電池および二次電池販売数量長期推移（単位：億個）



この工場に持ち込まれる乾電池で、3.40kgの水銀が抽出され、一部は一酸化マンガンや一酸化亜鉛を含む混合材料に生まれ変わり、テレビのブラウン管部品などに利用されている。(表2)

現在、水銀がゼロになった乾電池は不燃ごみとして回収されるケースが多く、最終的には埋め立てなどの処理がされている。

充電池小型電池の回収拠点が急増。リサイクル率の向上が今後の課題

携帯電話などの普及とともに、需要が増え続ける二次電池。資源有効利用促進法の施行(平成13年4月1日)とともに、ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池に対し、リサイクルを促進した設計や分別回収の表示、事業者の回収、リサイクルの義務が方向づけられてきた。法律の動きと呼応し、松下電池工業、ソニー、三洋電機など電池メーカー25社は、2000年6月、再資源化指定を受けた充電池小型電池の回収事業に乗り出し、家電販売店など1万5000カ所に専用回収ボックスを設置し、その後も普及させている。

回収率はニカド電池53%、ニッケル水素9%、リチウムイオン29%(2000年)となっている。二次電池の回収、再資源化については、ようやく動きが活発化してきたばかり。システムづくりや再資源化率の目標達成など、課題は山積している。

資源・エネルギーや有害性：便利さの裏に問題をはらむ電池

水銀がゼロになったとされる一次電池にしても、法律も整備され、回収と再資源化が進む二次電池にも、大なる問題が再び。まず、マンガン、カドミウム、亜鉛など稀少な資源を原料にしていること。例えば、小型シール乾電池には重量比で55%の鉛が使用されているが、その鉛の回収率はわずか43年といわれている。

製造に関わるエネルギー消費が多いことも問題だ。電池の製造に要したエネルギーと電池によって得られる電力とを比較するとわずか0.4%(マンガン乾電池)しか利用できていないという試算も出されており、電池がいかにエネルギーを浪費しているかわかる。

また、不燃ごみとして処理した場合の有害性については、環境汚染もある。母体を通しての子孫への影響が気がかりだ。一例を挙げよう。2000年4月7日毎日新聞にカドミウム汚染論についての記事が掲載されている。体内に入ると腎臓など内臓に影響を与え、イタイイタイ病を引き起こした有害重金属、カドミウム。日本においてカドミウムの約8割が携帯電話などの充電池電池に使用され、最終的にはごみとして処分されていることが、土壌汚染の原因になっているのではと懸念されている。

さらに再資源化が進んでいないマンガンや亜鉛、ニッケルについてもカドミウムと同じく、有害性の懸念が心配される。

さらに、電池の回収処理費用の負担を忘れてはならない。京都市では、簡型乾電池

の回収処理に1個あたり20円をかけている。簡型乾電池は、リサイクルすると経済的負担が市町村にかかるしくみになっている。

便利で快適な生活をかえる電池だが、資源やエネルギーの浪費、有害性や経済性を見過ごしてはならない。

電池の使用は控えめに。使用済みは、リサイクルへ。

さて、多くの問題をはらんでいる電池。環境に負担を与えないために私たちはどうすべきかといいたい。

① 乾電池は最小限に使う。

乾電池製造を減らす前にチェックしよう。

② できるだけ充電池の電池を使う。

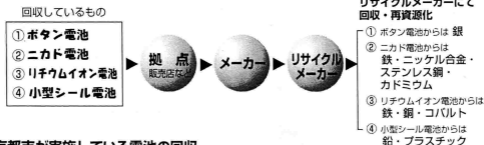
③ 使用後は、リサイクルに協力しよう。

以上を心がけ、生活するだけで地球環境への負担を少なくする暮らしに近づけるのではないだろうか。稀少な資源を食いつぶさすにすぎないだろうか。



店舗に並んだ専用リサイクルボックス。ボタン電池は、小さな箱に入れる。回収協力店は、このシールが目印

電気店など店頭での電池の回収



京都市が実施している電池の回収



回収拠点：区役所など市内77カ所

会員探訪



全員集合!

現在250の団体や専門家が集う、京都市こみ減量推進会議。それぞれにこみ減量への取り組みがあります。活動の様子を探ってみました。

取材：濱利興輔（京大工3部）

立命館大学「スーニヤ」環境サークル

Q 「スーニヤ」とは、どんな団体ですか。

A 立命館大学の学生が活動する環境サークルです。1999年、政経科学部の学生が、環境問題に関心を持ち、「スーニヤ」を立ち上げ、現在は、政経科学部だけでなく、法・文・産業社会・国際関係学部で、衣笠キャンパス内にあります。メンバーがいます。

Q どんな活動をしていますか。

A 私たちは「環境問題について学ぶ機会を提供する」「団体活動を通じて、自分ができることをやる」ということを目的として、自分ができることを実行しています。そのために、プロジェクト制をとっています。つまり、誰かがあることをやっていると出ていって、スーニヤの活動として承認する場合があります。その中で、プロジェクトがスタートし、興味ある中心にはたかまわしています。今年度はそのプロジェクトの中で、簡単に紹介して頂ければ幸いです。

Q 田舎の環境問題について、関心を持って頂くにはどうしたらいいですか。

A 大学の活動の中で、山田先生が田舎の環境問題について、お話を聞かせてくれたことが、とても刺激になりました。それを受けて、自分たちが、町作り協議会に加わって、お話を聞いたり、社会イベントに参加する機会をもらって、さらに同じことについて、実験的作業に参加して、その中で、大変さや苦労の辛さや、おもしろさや、楽しさ、なんかが多く、自分たちが「スーニヤ」で、「スーニヤ」のメンバーになり、一緒に活動して、「スーニヤ」のメンバーとして、活動しています。

Q リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

A リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

Q リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。



和室様々としたミーティングの風景 (机を轉じて話し合っている)

Q 卒業生はいるんですか。

A はい、卒業生はいるんです。卒業生は、環境問題に関心を持ち、活動を続けることが、とても大切なことです。卒業生が、環境問題に関心を持ち、活動を続けることが、とても大切なことです。

Q グリーンリサーチとは、どんな活動を行っていますか。

A グリーンリサーチとは、環境問題について学ぶ機会を提供する活動です。私たちは、環境問題について学ぶ機会を提供する活動です。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

Q 環境問題について、関心を持って頂くにはどうしたらいいですか。

A 環境問題について、関心を持って頂くにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

Q リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

A リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

Q リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

Q 「スーニヤ」とは、面白いイベントありますか。

A 「スーニヤ」とは、面白いイベントはたくさんあります。例えば、環境問題について学ぶ機会を提供する活動です。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

Q リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

A リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

Q リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

A リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

Q リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

A リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。例えば、リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。

Q リサーチが活動の中心になっていくように、活動を広げていくにはどうしたらいいですか。



立命館大学環境サークル「スーニヤ」のメンバー

立命館大学環境サークル スーニヤ

活動拠点：〒603-8346 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学内

TEL：075-465-8251 (立命館大学中央事務局)

メンバー数：約20名



活動拠点 立命館大学洋館の夕暮れ



取材に応じて下さった総務部庶務課主任 田中弘明さん
(右は専務 山名兼二さん)



弊所に並んだ飲料容器の分別BOX

竹菱電機株式会社

Q ISO14001の認証取得に向けてお忙しい中ですか。

A 我々がはじめて、創立50周年を過ぎました。その記念行事の一つとして、また21世紀を拓く企業の本格事業として、ISO14001認証取得に向けて取り組むのを決意しています。様々な課題が懸念される中、この形式での社会貢献も重要だと思っています。それに、当社の取引先企業に、ISO14001もしくはKJIS（旧のJIS）の認証取得を推奨して、いかに体系的な活動が動かしやすくなるか、社会的要請として受け入れられるか、2000年10月に活動をキックスタートし、今年7月まで調査、9月に本審査を受け、9月に取得予定定めています。

Q 2001年2月からは社内で活動をスタートされていますか。

A こそ社を始め、東京、名古屋、福岡、大阪、九州などにある支店や営業所（計9カ所）が一斉に、当現場方針に基づいた活動目標により、具体的な活動を開始しました。業務をシフトロウスの技術会社ですから、製品製造を中心とはなく、オフィスでの取り組が中心です。

Q どのような方針で活動されていますか。

A 環境方針「社会各社への名刺交換、ポケット版の環境方針」を推進するものとされています。また、社内LAN上「ISO14001お知らせ」にて

Q 社員教育や周知の徹底がキーとなると思いますが、環境方針「社会各社への名刺交換、ポケット版の環境方針」を推進するものとされています。

Q 社内LAN上「ISO14001お知らせ」にて

- 1 電気エネルギーの削減
- 2 一人当たり1日1枚の削減
- 3 一人当たりのプリント枚数の削減
- 4 社用車の燃費効率向上
- 5 水道使用量の削減
- 6 ごみ減量（リサイクル促進）
- 7 各種作業機械の点検



節電シールと節電マップ

「ISO14001」の認証取得に向けてお忙しい中ですか。

A 我々がはじめて、創立50周年を過ぎました。その記念行事の一つとして、また21世紀を拓く企業の本格事業として、ISO14001認証取得に向けて取り組むのを決意しています。様々な課題が懸念される中、この形式での社会貢献も重要だと思っています。それに、当社の取引先企業に、ISO14001もしくはKJIS（旧のJIS）の認証取得を推奨して、いかに体系的な活動が動かしやすくなるか、社会的要請として受け入れられるか、2000年10月に活動をキックスタートし、今年7月まで調査、9月に本審査を受け、9月に取得予定定めています。

Q 2001年2月からは社内で活動をスタートされていますか。

A こそ社を始め、東京、名古屋、福岡、大阪、九州などにある支店や営業所（計9カ所）が一斉に、当現場方針に基づいた活動目標により、具体的な活動を開始しました。業務をシフトロウスの技術会社ですから、製品製造を中心とはなく、オフィスでの取り組が中心です。

Q どのような方針で活動されていますか。

A 環境方針「社会各社への名刺交換、ポケット版の環境方針」を推進するものとされています。また、社内LAN上「ISO14001お知らせ」にて

Q 社員教育や周知の徹底がキーとなると思いますが、環境方針「社会各社への名刺交換、ポケット版の環境方針」を推進するものとされています。

Q 社内LAN上「ISO14001お知らせ」にて

- 1 電気エネルギーの削減
- 2 一人当たり1日1枚の削減
- 3 一人当たりのプリント枚数の削減
- 4 社用車の燃費効率向上
- 5 水道使用量の削減
- 6 ごみ減量（リサイクル促進）
- 7 各種作業機械の点検

Q 社内LAN上「ISO14001お知らせ」にて

A 我々がはじめて、創立50周年を過ぎました。その記念行事の一つとして、また21世紀を拓く企業の本格事業として、ISO14001認証取得に向けて取り組むのを決意しています。様々な課題が懸念される中、この形式での社会貢献も重要だと思っています。それに、当社の取引先企業に、ISO14001もしくはKJIS（旧のJIS）の認証取得を推奨して、いかに体系的な活動が動かしやすくなるか、社会的要請として受け入れられるか、2000年10月に活動をキックスタートし、今年7月まで調査、9月に本審査を受け、9月に取得予定定めています。

Q 社内LAN上「ISO14001お知らせ」にて

竹菱電機株式会社

本社所在地：〒615-8501
京都市右京区西京区豆田町29
TEL：075-325-2111（代）
FAX：075-325-2250（代）
URL：http://www.takebisho.co.jp
創業：1926年4月24日（大正15年）
資本金：22億4,000万円

事業内容：①販売並びに関連工事の設計・請負（各種汎用電気機器、半導体、電力機器、空調、エレベーター、各種通信機器等）②販売並びにシステム設計、ソフト開発（OA・オープンシステム、FAシステム等）

ISO14001

社報 ISO14001ニュース

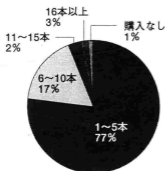
Q リサイクルBOXは分別回収し、特定のリサイクル業者へ引当確保されています。紙以外に分別回収を行っているのは、缶、瓶、紙パック、紙コップなどの飲料容器。そして、パソコン類も特定の業者へ引当確保されており、これらのリサイクル率は毎年10%以上となっています。

A 環境に配慮した製品の普及にも熱心なもので、大電力発電や「コシエネシ」システムなど、省エネ、省資源などに結びつく機器やシステムの販売を促進していきたいと考えています。環境マップを毎回参照しており、消費者の方々へのアピールに努めております。これによって、ISO14001認証取得に向けた活動の一つも進めています。現在、各種省エネ機器の取組に向け、省エネ率や納入先、販売実績などを調査しているところと、また、企業として、事業活動を通じた環境問題への貢献を、今後ますます強化していきたいと考えています。

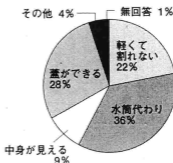
ペットボトルに関する意識調査

急速に増えているペットボトル容器。'94年に約12万トンだった生産量が、5年後の'99年には3倍近くも増え、33万トンに達している（PETボトルリサイクル推進協議会）。たしかに「軽く」「割れにくく」便利な容器にはちがいないのだが、リサイクルとなると問題をはらんでいる。めぐるくん推進友の会はペットボトルに着目し、昨年秋アンケート調査を実施した。

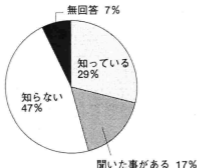
問1 最近の1週間に、ペットボトルの飲料水を何本購入しましたか



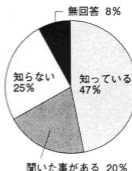
問2 最近ペットボトルの小型が出まわっていますが、その利点について（複数回答可）



問3 デPOSIT制度を知っていますか？



問4 リーナブル制度を知っていますか？



あなたのご意見をお寄せください

このページは、ごみに関する自由な発言コーナーです。どなたでもどなたのご意見でも歓迎します。京都市ごみ減量推進会議までどうぞ。

〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局環境企画部
循環型社会推進課内
京都市ごみ減量推進会議事務局

☎ 075-257-5053 直 075-213-0453

E-mail gomigen@inbox.kyoto-inet.or.jp

URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.htm>

京都市ごみ減量推進会議 会報「ごみを減らそう!!」NO.16
2001年（平成13年）6月発行
編集発行 京都市ごみ減量推進会議

◎調査方法/めぐるくん推進友の会会員が、京都市内全地域で年代・性別毎に8名に調査をする。

◎調査時期/2000年9月上旬 ◎回答者数/780名

◎調査協力者数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男子	62	40	35	36	37	55	37
女子	62	50	57	70	98	79	49
記入なし	2	5	2	5	7	4	
合計	124	92	97	108	128	141	90

